

## 第1回市民参加及び協働推進市民懇談会会議録

日 時 平成22年7月13日(火) 午後7時00分～8時50分  
場 所 市長公室

### 出席者

○市民懇談会委員 加光委員 河原井委員 佐藤委員 清水委員  
岩田委員 有賀委員 小淵委員 島谷委員

### ○事務局<協働推進課>

金子市民生活部長(委嘱状交付及び挨拶) 山岸課長 中嶋 福岡

### 傍聴者なし

内 容	
1. 開 会	中嶋
2. 委嘱状交付式	市民生活部長が交付
3. あいさつ	金子市民生活部長
4. 自己紹介	委員自己紹介及び職員自己紹介
5. 議 題	
(1) 報告事項	
①平成21年度審議会等の開催状況及びパブリックコメントの実施状況について事務局より結果概要を報告。	
委 員：市政情報コーナーでの公表日数が極端に減ってしまっているが。	
事務局：市政情報コーナーでの公表数が少ないこともあるが、徹底されていない部分もあり、今後検討していく必要がある。	
委 員：市政情報コーナーとは、今のところ市の情報が全て集まるという意味で考えれば、しっかりとその場を利用した公表をしていかなければならない。	
事務局：十分に検討していく。	
②平成21年度まちづくり講座実績集計表について	
事務局より講座の集計表について報告した。	
委 員：24番富士見の農業という講座は2回で611人の参加者があるとなっているが、担当課や内容、参加者の内訳は把握しているのか。	

事務局：担当課は産業振興課でやっている。協働推進課では参加者の内訳までは把握していない。

委員：ゴミの出し方なども多く実施されている。身近な物が多くなっている。

### ③平成22年度パブリックコメントの実施予定について

事務局：今年度のパブリックコメント（実施済み2事業、予定5事業）を報告した。

委員：すでに実施しているパブリックコメントの内容や結果については、次回の会議開催の頃には公表されるのか。

事務局：次回の会議は11月頃を予定しているので、その頃には公表される。

委員：どっとふじみしが変わったが、パブリックコメントの提出の仕方は簡単になったのか。

事務局：提出のやり方は、基本的に変わっていない。

委員：いつも思うが、市民目線で見ると、どういう内容なのかと言うことが汲み取れない。そのパブリックコメントごとにもう少しやさしいタイトルに出来ないか。パブリックコメントの位置付けが重要な物ならば、もっともっと市民の意見を出してもらいたいし、もう少しわかりやすくすれば意見が出るのではないかと思う。市民レベルの目線でわかりやすくやって欲しい。

ニセコの条例等は本当にわかりやすく出来ている。小学生でもわかるようになっている。富士見市もそのレベルでやってもらいたい。市民の中には、建設的な意見は言えないが、クレームなら言える人がいる。クレームでも良いと思う。市民の意見をより多く集めることが大切。

事務局：今後の課題として検討していく。

## (2) 今期の協議内容とスケジュール

### ①協議内容

事務局：昨年度は、市民活動支援センターや市民発議のことについて議論をしていたのだが、今年度も引き続き、どのようなことが市民活動の支援になるのか、と言ったことを協議してもらいたい。昨年は近隣の活動センターの資料を提示したが、今回は川崎市の市民活動センターを資料として提示する。近隣の施設とは違い、部屋をブースとして1年間貸し出すという施設であり、そこでさまざまな活動や交流を行うことが出来る施設である。資料にかぎらず、富士見市にどのような市民活動支援が必要なのか、様々な活動をしている皆様にいろいろな意見を出していただきたい。

副委員長：市民活動センターという名称ありきではないところをご理解いただいて、様々な角度で意見を出してもらいたい。

※ 各委員の活動内容も含めて報告をもらった。

委員：私の参加しているNPO法人は、お隣のふじみ野市が活動拠点となっている。

今は民間のところを事務所として借りているが、今度、うれし野会館というところを市民の活動拠点として位置づけていくとのことで、そこを申し込む予定。富士見市よりふじみ野市のほうが少し進んでいると感じている。私は市民活動支援センターという名称ではなく、市民活動情報・支援センターとした方が良いと思う。市民がそこに行けば一気に情報を手に入れることが出来る、そこに行けば他の団体とのコミュニケーションが図れるというのが市民活動センターの本来の姿ではないかと思う。ふじみ野市は職員と専従のコーディネーターがいて、様々なアドバイスをしてもらえる。⇒活発にやり始めている。単純に場所を提供するだけではなく、市民の情報発信源になるのと同時に、市民活動がしやすいようにコーディネートする場所であり、様々な情報提供をする場所であるべきと考える。富士見市も自治基本条例を作った時と同じくらい研究して作って欲しい。南西部地域でも富士見市の組織数は中の下。まだまだ意識が低いと感じている。

委員：皆さんの各自の活動をまとめることも情報支援になる。

委員：市民活動センターとは、ボランティア団体情報の集約地点であり、また発信地点であると思っている。あくまでも団体の脳の部分がここにある、と言うセンターを造らなければならない。「こういうことが知りたい、こういうことがやりたい」と言った市民が来た場合、すぐにコーディネートできるような場でないといけない。今は単なる場所貸しの市民活動センターが多い。情報が入っていない。それと、団体同士がお互いの情報交換が出来る場があるとなお良い。

委員：活動支援センターの話をするのは前回と今回で2回目。何回話をすれば結論が出るというものでもなく、もう少し議論をした方が良い。また、机上の議論だけではなく、実際に活動している場所への視察などもできればイメージしやすいのではないかと思う。

委員：ここに集まった委員の方たちは、ネットワーク作りのための情報交換の場として利用したいという意見が出ているが、ここにはいない人たちの意向はどうしたら知ることが出来るのか。

事務局：ひとつは協働推進課所管で実施している事業で、市内及び近隣のNPOを対象とした「NPO団体交流会」という事業を実施している。そういった機会に話を聞いたりアンケートをとったりする事はできる。そういった中で活動の場が欲しいという声は出ているが、まだ意見交換が始まったばかりの事業であり、もう少し意思疎通を図るまでにはまだ時間がかかる。

しかし、こうした場で始まってはいるので、成熟させていきたい。また、NPO団体というのは、認定しているかしていないかは関係ないので、サークル活動でも自主的にやっていたらNPOといえなくもないので、そういったところの声を聞くには、公民館や交流センターなどで活動している団体の中に隠れたニーズがあるかも知れないので、もっと積極的に調べる必要もあり、検討していきたい。

②スケジュールについて

事務局：今年度は今回（第1回）を含んで3回実施すること及び、会議の内容について説明。また、意見として出された、先進地視察についてを第2回会議に併せて実施することなど、正副委員長と協議させてもらうことを報告した。

委員：次回の会議内容で、市民参加及び協働事業の調査報告とあるが、実施している事業だけではなく継続しなかった事業を調査し検証すると次につながるのでは。

事務局：確かに継続できなかつた課題がどこにあったのかというところを検証しないと、事業数が増加したから良いというだけでは済まない問題である。調査の中身を含めて検討する。

閉 会 加光副委員長